

平成30年5月16日(水) No.426



からだを鍛え 心を磨く いつも仲間とともに 夢のある学校

里中だより

川口市立里中学校

川口市里621番地

TEL 048-282-5708

さわやか相談室 284-1010

1年176名 2年179名 3年155名

<http://www.sch.kawaguchi.saitama.jp/sato-j/>

「本物に触れる」

校長 高田 晶子

若葉が目に優しい季節となり、生徒たちの活動の音が心地よく響く今日この頃となりました。11日には今年最初の授業参観を開催し、引き続きのPTA総会にも多くの保護者の皆様にご出席いただきましてありがとうございました。新体制のスタートとなり、里中学校の益々の教育活動の充実に、ご支援の程よろしくお願いいたします。校内に保護者の方が訪問していただく日は何かと生徒たちだけでなく先生たちの緊張感も漂い、新鮮な一日になります。様々な交流の場面が見られ素敵な一日となりました。



さて、今年度も里中学校区の小中連携の活動は継続しています。自慢のあいさつ運動を4月23日から約3週間、里小学校正門に部活動単位でお邪魔しました。不思議なもので回数が進むほど、声の調子も表情もよくなってきます。

また、里中学校で月一回行われている、生徒集会での本部役員や専門委員会ごとの発表において変化を感じています。それは、きちんと伝えようとする姿勢です。生徒同士で積み上げてきたお互いの姿勢から、「自分もきちんとやろう」「どういう発表の仕方がいいのだろう」など、肌で感じる生きた学習の成果だと思います。

このような実際の体験から学ぶことは「本物に触れる」学びであると考えます。美術館へ行く、旅に出る、誰かに会いに行く、などということも大事ですが、私たちの身近には、本物に触れる機会が溢れています。心地よい朝の挨拶の声を聞きながら、その心地よさに自分が馴染んでいくことや、同じ中学生の仲間の姿から影響を受けることなど、日々の生活の中から「本物に触れる」体験を大いに積んでほしいと思います。

先日、テレビドラマのワンシーンに、母の帰りを待つ小学生の子どもがたくさん折り紙を折ってうれしそうに並べている場面がありました。でも、仕事から帰ってきたお母さんがいきなりそれを見て、「何、こんなことばかりして。こんなことやって何の役にも立たないんだから。」と言って子どもが作った折り紙をテーブルの下に払いのけてしまいました。一瞬、動揺しましたが、ドラマの中のことでよかったと思いました。今自分ができることを夢中でやることも「本物に触れる」大事なことです。大人の基準が全てではないのです。

最近ではゲームに夢中になる人もいます。始めれば夢中になるかもしれませんが、時間を費やす目的が違います。やることなくして時間をつぶすために始めるゲームは「本物に」辿り着きません。

身近にある「本物に触れる」生活を、今日もていねいに、大切にしていきたいものです。